

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「EXE-i グローバル中小型株式ファンド」は、2022年5月12日に第9期決算を行いました。

当ファンドは、主としてETF（上場投資信託）への投資を通じて、世界（日本を含む）の中小型株式へ実質的に投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざして運用を行いました。

ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

第9期末（2022年5月12日）

基準価額	21,634円
純資産総額	10,917百万円
第9期	
騰落率	△1.5%
分配金（税込み）合計	0円

(注1) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>
右記SBIアセットマネジメントのURLにアクセス
⇒「ファンド情報」⇒「当該ファンド」を選択 ⇒ 「目論見書・定期レポート等」を選択 ⇒ 「運用報告書（全体版）」より該当の決算期を選択ください。

EXE-i グローバル 中小型株式ファンド

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第9期（決算日2022年5月12日）

作成対象期間（2021年5月13日～2022年5月12日）

 SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

SBIアセットマネジメント
URL:<http://www.sbiasset.com/jp/>

運用経過

基準価額等の推移

(2021年5月13日～2022年5月12日)



期 首：21,972円

期 末：21,634円 (既払分配金 (税込み)：0円)

騰落率：△1.5%

- (注1) 参考指標はFTSE グローバル スモール・キャップ インデックス (米ドルベース) を委託会社で円換算しています。詳細はP14をご参照ください。
 (注2) 参考指標は、2021年5月12日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しております。
 (注3) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載しておりません。

○基準価額の主な変動要因

上昇要因

- ・ワクチン接種拡大により新型コロナウイルス感染拡大の抑制効果が欧米等主要国で見られ、行動制限が緩和されたこと。
- ・新型コロナウイルス大流行の収束と経済活動正常化への期待。
- ・米連邦準備制度理事会 (FRB) が金融緩和の縮小と金融引き締めへ転換するなか、米国国債利回りが上昇し、米ドル高円安傾向が期の後半強まったこと。

下落要因

- ・2021年9月～10月頃、FRBによるテーパリング (量的緩和縮小) 観測が強まったこと。
- ・2021年11月～12月頃、インフレ上昇への懸念とFRBのテーパリング加速と利上げ観測が強まったこと。
- ・2022年1月～3月、FRBによる利上げ観測が強まり、3月に利上げが実施されるとともに量的引締

- め（QT）開始が示されたこと、5月の米連邦公開市場委員会（FOMC）で追加利上げと6月からのQT開始が決定されたこと。
- ・2月24日に始まったロシアのウクライナ侵攻により地政学的リスクが強まり、制裁によりエネルギー価格上昇の景気への悪影響が懸念されたこと。3月頃から中国主要都市で新型コロナウイルス感染拡大抑制へ向けたロックダウンにより世界経済への悪影響が懸念されたこと。

1万口当たりの費用明細

(2021年5月13日～2022年5月12日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 58	% 0.253	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(25)	(0.110)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(25)	(0.110)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(8)	(0.033)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	2	0.007	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(投 資 信 託 証 券)	(2)	(0.007)	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.000	(c)有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(投 資 信 託 証 券)	(0)	(0.000)	
(d) そ の 他 費 用	3	0.013	(d)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(3)	(0.011)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	63	0.273	
期中の平均基準価額は、23,102円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入しております。

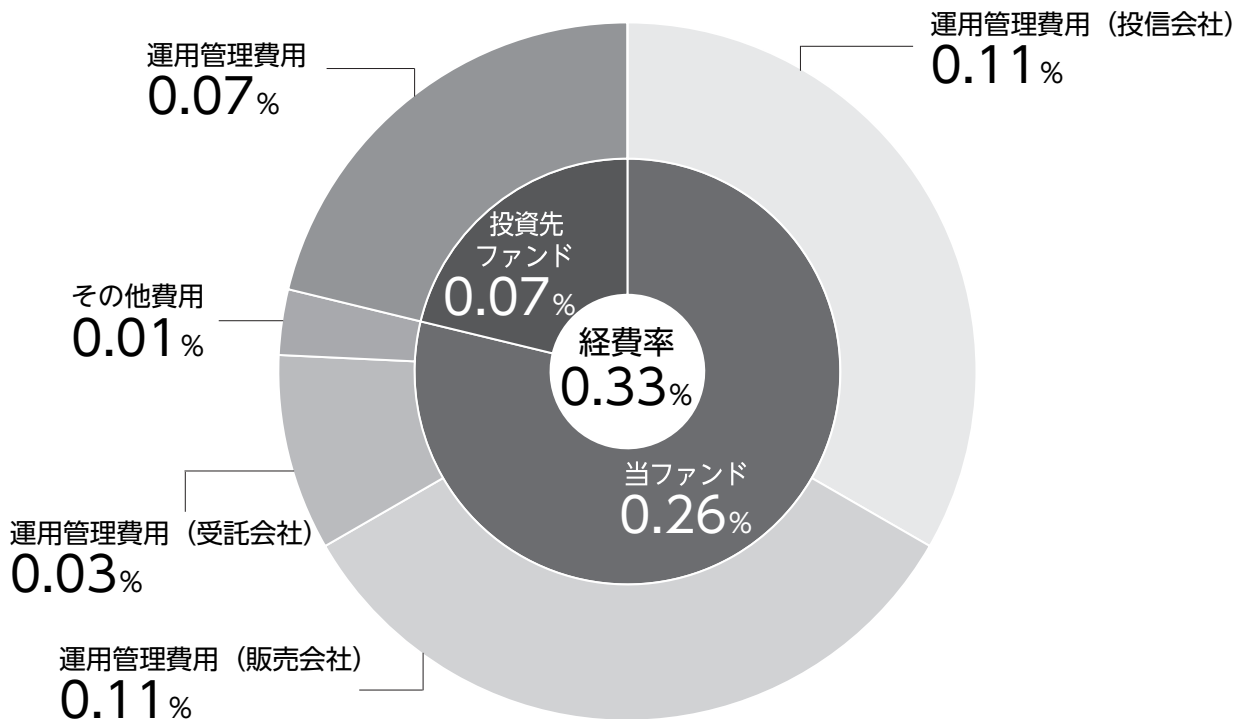
(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く）

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は0.33%です。



経費率 (①+②)	0.33%
①当ファンドの費用の比率	0.26%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.07%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) ②の費用は、各月末の投資先ファンドの保有比率に当該投資先ファンドの運用管理費用の比率を乗じて算出した概算値です。

(注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

(注5) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。

(注6) ①と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2017年5月12日～2022年5月12日)



(注) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載しておりません。

	2017年5月12日 期首	2018年5月14日 決算日	2019年5月13日 決算日	2020年5月12日 決算日	2021年5月12日 決算日	2022年5月12日 決算日
基準価額 (円)	14,968	16,661	15,895	13,601	21,972	21,634
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	11.3	△ 4.6	△ 14.4	61.6	△ 1.5
参考指標騰落率 (%)	—	12.1	△ 3.0	△ 12.6	63.4	△ 1.3
純資産総額 (百万円)	3,830	5,191	6,082	5,800	10,186	10,917

(注1) 参考指標はFTSE グローバル スモール・キャップ インデックス (米ドルベース) を委託会社で円換算しています。詳細はP14をご参照ください。

(注2) 参考指標は、2017年5月12日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しております。

(注3) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注4) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

投資環境

(2021年5月13日～2022年5月12日)

<中小型株式市場>

期首から2021年11月にかけては、ワクチン接種の拡大により先進国を中心として新型コロナウイルス感染拡大の抑制が徐々に進み、行動制限が緩和される環境下、中小型株式市場は景気拡張を受け上昇傾向で推移し11月上旬頃に当期の高値水準（米ドルベース）を付けました。一方、変異株の感染拡大により一時的に行動制限が強化されたため株価が下押しされる場面もありました。また、個人消費、投資や雇用が回復し原材料等のなど需要が回復するなか、賃金上昇圧力や供給不安によりインフレが上昇しました。そのようななか、各国中銀が新型コロナウイルスの大流行時に行った超金融緩和策を正常化する動きが強まり、株式市場において、金融緩和による好相場が終わるとの観点から不安材料視されました。米連邦準備制度理事会（FRB）は雇用の回復とインフレ圧力を受け、8月頃からテーパリング（量的緩和の縮小）に向けた動きを示しました。2021年9月以降、世界的にFRBの金融緩和策の転換プロセスが株式市場で最も注目されるテーマとなりました。2021年11月にテーパリング開始が発表されると、中小型株式市場は将来的な資金調達コストの上昇や利上げの影響による需要減少を大型株よりも先行して織り込む動きとなりました。資本財・サービスや不動産など景気動向や借入れコストの水準に相対的に敏感なセクターのウェイトが高いことも影響したと考えます。なお、テーパリングに関しては、同年12月には加速化が発表されました。こうした環境下、2022年に入り、インフレ上昇が加速するなか、FRBが積極的に金融引き締めへ向けて動くとの観測が強まったため、市場は調整色を強めました。その間、インフレ上昇は続いたため、FRBの政策が後追いになっているとの見方や、過度の引き締めや引締め長期化などへの懸念が強まりました。債券市場も、米長期国債利回りが上昇基調となり、長期的な高成長期待で買われる成長株の下落も顕著となりました。その後、2月24日にロシアがウクライナへ侵攻すると地政学的リスクや欧米等の制裁によるエネルギー価格の上昇が意識され、欧州市場の下落が大きくなりました。3月のFOMCで利上げが開始されQT（量的引締め）の開始が示唆されました。しかしながら、ウクライナ危機の長期化や和平交渉への期待などからリスク回避的な動きが一時的に緩和されると値戻しも見られ、当ファンドは円安により、4月後半に高値水準を付けました。期末にかけて、5月3日～4日のFOMCで0.5%利上げと6月からのQT開始が声明されると、市場も金融引き締めのペースや長期化を意識し、過度の引き締めが懸念されました。さらに、高止まりを続けるインフレとともに、市場では将来の景気後退への懸念が強まり、弱気相場へ向けた株価の動きも懸念されるようになりました。

以上、コロナ禍からの回復、経済再開、金融政策の正常化などの動きが始まったため、景気拡大や企業業績の成長は継続しましたが、中小型株式は将来の景気減速、後退などを反映する動きとなり、期末に向けて下落へ転じました。結果として米ドルベースでは当期安値水準で引けました。

当期は、FRBの金融引き締めを先行して織り込む米国市場と、欧州市場のパフォーマンス格差は、縮小傾向が見られました。

セクターの物色動向は、特に、期の後半に向けて、米国債券利回りが大きく上昇したことから、グロース株が売られる傾向が顕著でした。しかしながら、利上げが本格化し、利上げや高止まりしたインフレにより、将来的な景気後退リスクが意識されると景気敏感なバリュー株も売られる動きが見られました。

<外国為替市場>

ドル／円は、109円近辺で始まりまして。期首から2021年8月初頃まで、ワクチン接種が普及しても、コロナ禍による経済的打撃からの正常化プロセスは長期化するとの見方が強く、米連邦準備制度理事会（FRB）の金融緩和も長期化するとの見方から、米国10年国債は1.2%近辺に低下しました。こうした環境下、米ドル円はほぼ横ばいに推移しました。8月初に、米雇用統計の上振れを受けて、景気の回復期待が強まった後、徐々に米長期金利の上昇が見られ、FRBのテーパリング（量的緩和の縮小）観測が強まりました。そうしたなか、9月下旬頃から10月にかけて米ドル高円安傾向が強まり、110円近辺から115円近辺に上昇しました。背景には、7月頃からのデルタ株による新型コロナウイルスの感染拡大が減少したことも挙げられます。その後は、FRBのテーパリング開始にともなう利上げ開始観測やインフレ指標の上昇予想による米長期金利の上昇圧力と11月下旬からのオミクロン株の感染拡大による景気への悪影響への懸念などによる下降圧力が交錯しました。さらに欧州での新型コロナウイルス感染拡大や中国の景気悪化への懸念などにより、米国債利回りは1.5%～1.7%で推移しました。12月には、FRBのテーパリング加速や利上げ開始予想を受けて長期金利上昇圧力が強まりました。こうしたなか、米ドル円相場は、米国のオミクロン株による新型コロナウイルスの感染再拡大期（1月にピークをつけたものの高止まり）やウクライナ情勢の緊迫化などによる世界的なリスク回避の動きの中、米長期金利の上昇にかかわらず、概ね横ばいで推移しました。2月24日のロシアのウクライナ侵攻後、米ドルは、ウクライナ情勢に伴うリスク回避の動きや、米金利上昇などが交錯し、もみ合いましたが、3月中旬以降、米公開市場委員会（FOMC）を受けて米利上げペースの加速が意識されたことなどから、上昇しました。下旬は、FRBは積極的に金融政策の正常化を進めるとの見方が強まる中、日米金融政策の方向性の違いが意識され大幅上昇しました。4月に入り、下旬以降、日銀が金利上昇を抑制する姿勢を明確に示す中、金融政策の引き締めを進めるFRBとの違いが改めて意識され、米ドルは対円で一段と上昇し、130円近辺で期末を迎えました。ユーロも、新型コロナウイルス感染拡大長期化により、対円で軟調に推移しましたが、コロナウイルスの感染拡大の減少傾向などから、期末に向けて、ユーロ高円安傾向となりました。その他の先進国通貨（英国ポンド、豪ドル）なども、円が金融緩和の方向性を維持する中、期末にかけて金融引き締めを志向する中銀が増えて対円で強含み傾向となりました。先進国主要通貨は今期は、米国経済の回復の強さなどから、米ドルに対し弱含む傾向が続きました。このような状況下、米ドル円は109円近辺から130円近辺へ上昇し130円で当期を終えました。

米ドル以外の主要通貨については、米国が金融引き締めを積極的に進める中、対米ドルで弱含みとなり、対円では強含み傾向となりました。ユーロは136円台、英ポンドは158円台、豪ドルは90円台で期末を迎えました（期初は、ユーロは134円台、英ポンドは155円台、豪ドルは85円台）。

当ファンドのポートフォリオ

(2021年5月13日～2022年5月12日)

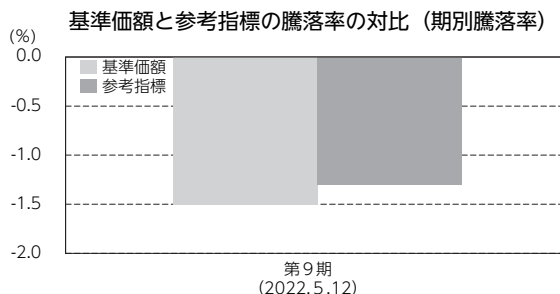
モーニングスター・アセット・マネジメントの投資助言に基づいた基本投資割合に従い、海外のETF（上場投資信託）への投資を通じて、世界（日本を含む）の中小型株式へ実質的に投資を行いました。投資比率の合計は95%以上の高位を保ちました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2021年5月13日～2022年5月12日)

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

右記のグラフは、基準価額と参考指標の騰落率の対比です。



(注) 参考指標はFTSEグローバル スモール・キャップ インデックス（円換算ベース）を使用しています。詳細はP14をご参照ください。

分配金

(2021年5月13日～2022年5月12日)

当期は基準価額等を勘案した結果、収益分配は行わないことといたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第9期
	2021年5月13日～ 2022年5月12日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	11,683

(注1) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

主としてETF（上場投資信託）への投資を通じて、世界（日本を含む）の中小型株式へ実質的に投資し、世界（日本を含む）の中小型株式市場の値動きと同等の投資成果をめざします。当ファンドの運用にあたっては、モーニングスター・アセット・マネジメントの投資助言を受け、原則として年1回基本投資割合の見直しを行います。

お知らせ

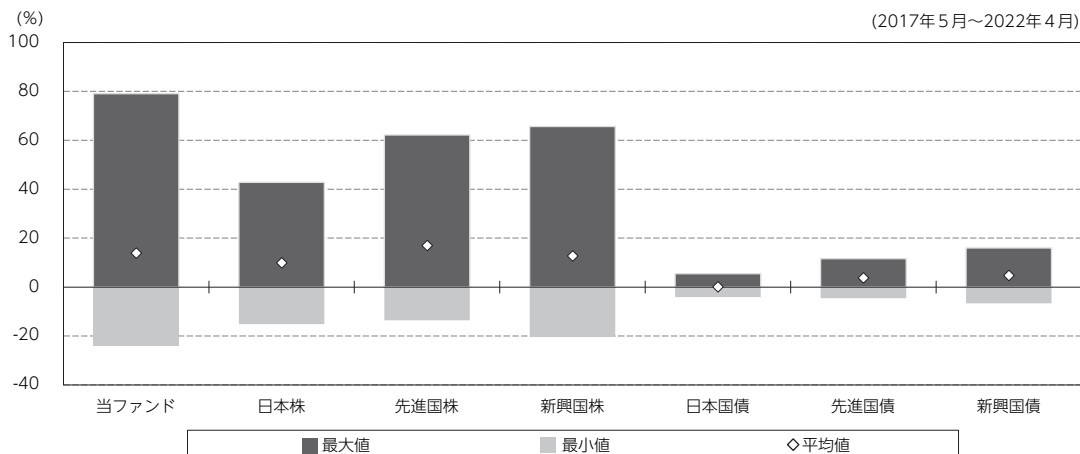
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	無期限（2013年5月13日設定）
運用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・主として世界（日本を含む）の中小型株式市場の値動きに連動する投資対象ファンドを複数組合せることにより、信託財産の中長期的な成長をめざします。 ・参考指標は、FTSEグローバル スモール・キャップ インデックス（円換算ベース）とします。（2022年5月12日現在） ・市場の変動により、投資対象ファンドの組入比率が基本投資割合から乖離した場合は、原則として3カ月に1回、基本投資割合へ戻す調整を行います。 ・基本投資割合の見直しについては、投資対象ファンドの経費率、パフォーマンス、参考指標との連動性、流動性等を考慮して、原則として1年に1回行います。 ・当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行い、実質的な運用は投資信託証券への投資を通じて行います。 ・当ファンドの運用にあたっては、「モーニングスター・アセット・マネジメント株式会社」の投資助言を受けます。
主要投資対象	主としてETF（上場投資信託）への投資を通じて、世界（日本を含む）の中小型株式へ実質的に投資します。
運用方法	主として世界（日本を含む）の中小型株式市場の値動きに連動する投資対象ファンドを複数組合せることにより、信託財産の中長期的な成長をめざします。
分配方針	毎決算時（年1回毎年5月12日。休業日の場合は翌営業日とします。）に、分配方針に基づき分配を行います。分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とし、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して収益分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わない場合があります。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	79.0	42.8	62.2	65.6	5.5	11.6	16.0
最小値	△ 23.8	△ 15.1	△ 13.6	△ 20.4	△ 4.1	△ 4.6	△ 6.6
平均値	13.9	9.9	17.0	12.7	0.1	3.7	4.7

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2017年5月から2022年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《各資産クラスの指数》

日本株…Morningstar 日本株式指数

先進国株…Morningstar 先進国株式指数 (除く日本)

新興国株…Morningstar 新興国株式指数

日本国債…Morningstar 日本国債指数

先進国債…Morningstar グローバル国債指数 (除く日本)

新興国債…Morningstar 新興国ソブリン債指数

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、全て税引前利子・配当込み指数です。

*各指数についての説明は、P14の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2022年5月12日現在)

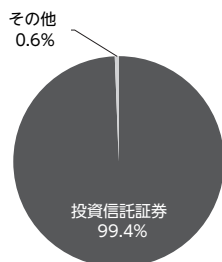
○組入上位ファンド

銘柄名	第9期末
	%
バンガード・スモールキャップ ETF	59.3
バンガード・FTSE・オールワールド(除く米国)スモールキャップETF	40.7
組入銘柄数	2銘柄

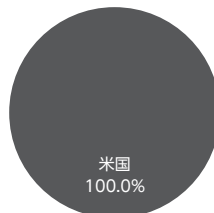
(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

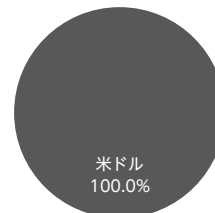
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分は組入投資信託証券の株式評価額に対する比率です。

(注3) 国別配分は発行国を表示しております。

(注4) 通貨別配分は組入投資信託証券の株式評価額に対する比率です。

純資産等

項目	第9期末
	2022年5月12日
純資産総額	10,917,710,019円
受益権総口数	5,046,442,227口
1万口当たり基準価額	21,634円

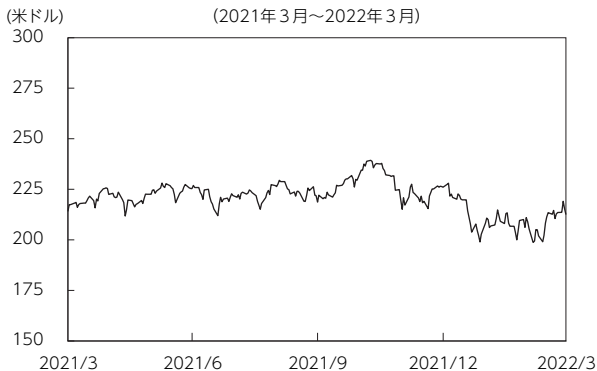
(注) 期中における追加設定元本額は1,490,666,507円、同解約元本額は1,080,349,513円です。

組入上位ファンドの概要

バンガード・スモールキャップ ETF

【基準価額の推移】

(2021年3月～2022年3月)



【組入上位10銘柄】

(2022年3月末現在)

	銘柄名	比率
		%
1	Molina Healthcare Inc.	0.4
2	Quanta Services Inc.	0.4
3	Marathon Oil Corp.	0.3
4	Constellation Energy Corp.	0.3
5	Entegris Inc.	0.3
6	Targa Resources Corp.	0.3
7	Bio-Techne Corp.	0.3
8	Alcoa Corp.	0.3
9	Brown & Brown Inc.	0.3
10	Atmos Energy Corp.	0.3
	組入銘柄数	1,548銘柄

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

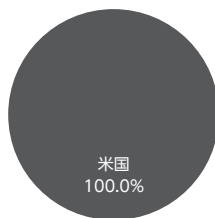
【1万口当たりの費用明細】

入手可能な1万口当たりの費用明細のデータが存在しないため、掲載しておりません。

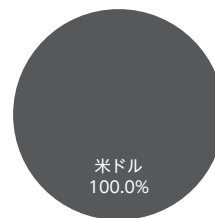
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 資産別・国別・通貨別のデータは2022年3月31日現在のものです。

(注2) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

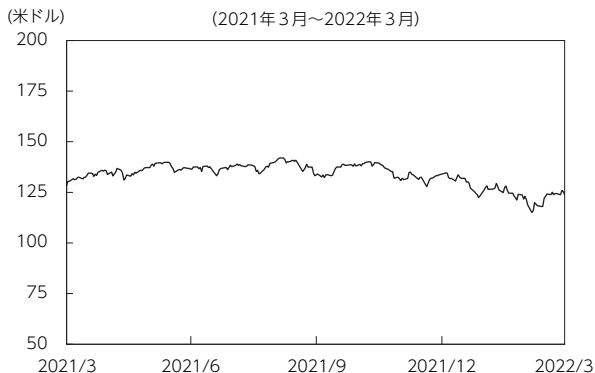
(注3) 国別配分は株式評価額に対する比率です。

(注4) 国別配分は発行国を表示しております。

※Bloomberg及びThe Vanguard Group, Inc.のデータを基にSBIアセットマネジメントが作成

バンガード・FTSE・オールワールド（除く米国）スモールキャップETF

【基準価額の推移】



【組入上位10銘柄】

(2022年3月末現在)

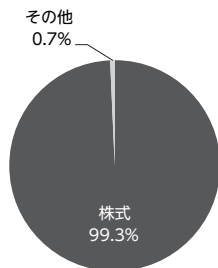
	銘柄名	比率
		%
1	First Quantum Minerals Ltd.	0.6
2	WSP Global Inc.	0.5
3	Emera Inc.	0.4
4	Tourmaline Oil Corp.	0.4
5	Cameco Corp.	0.4
6	Open Text Corp.	0.4
7	Algonquin Power & Utilities Corp.	0.3
8	TFI INTERNATIONA	0.3
9	ARC Resources Ltd.	0.3
10	West Fraser Timber Co. Ltd.	0.3
組入銘柄数		4,297銘柄

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

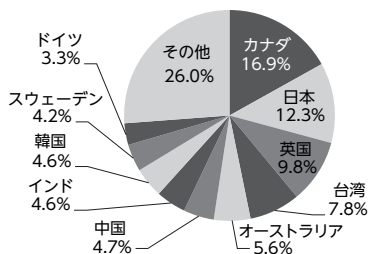
【1万口当たりの費用明細】

入手可能な1万口当たりの費用明細のデータが存在しないため、掲載しておりません。

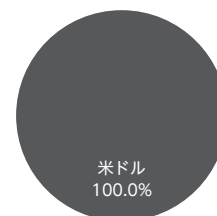
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 資産別・国別・通貨別のデータは2022年3月31日現在のものです。

(注2) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別配分は株式評価額に対する比率です。

(注4) 国別配分は発行国を表示しております。

※Bloomberg及びThe Vanguard Group, Inc.のデータを基にSBIアセットマネジメントが作成

＜当ファンドの参考指標について＞

参考指標は2015年1月まではMSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス・スモールキャップ（米ドルベース）を、2015年2月からはFTSEグローバル スモール・キャップ インデックス（米ドルベース）を委託会社で円換算しています。

○FTSEグローバル スモール・キャップ インデックス

FTSEグローバル スモール・キャップ インデックスとは、FTSE社が開発した指数で世界の中小型株式市場全体の動きを表す指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はFTSE社に帰属します。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

〈各指数の概要〉

日本株：Morningstar 日本株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。

先進国株：Morningstar 先進国株式指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。

新興国株：Morningstar 新興国株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。

日本国債：Morningstar 日本国債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。

先進国債：Morningstar グローバル国債指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。

新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

〈重要事項〉

本ファンドは、Morningstar, Inc.、又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に本ファンドに投資することの当否、または本ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、本ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarインデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は本ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は本ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、本ファンドの基準価額及び設定金額あるいは本ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または本ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、本ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、本ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。